

| | | | | | | | | | |
|---|--|--------------------|--------|-----------|----------------|-------------------|---------------|------|-----|
| 科目ナンバリング | | U-LAS01 20008 SJ38 | | | | | | | |
| 授業科目名 <英訳> | 日本古代・中世政治文化論基礎ゼミナール Introductory Seminar on Politics and Culture in Ancient and Medieval Japan I | | | | 担当者所属 職名・氏名 | 人間・環境学研究科 教授 吉江 崇 | | | |
| 群 | 人文・社会科学科目群 | | 分野(分類) | 歴史・文明(各論) | | | 使用言語 | 日本語 | |
| 旧群 | A群 | 単位数 | 2単位 | 週コマ数 | 1コマ | 授業形態 | ゼミナール(対面授業科目) | | |
| 開講年度・ 開講期 | 2026・後期 | | 曜時限 | 月5 | | 配当学年 | 全回生 | 対象学生 | 全学向 |
| 【授業の概要・目的】 | | | | | | | | | |
| <p>【日本古代・中世史研究書入門】</p> <p>1冊の研究書を受講者全員で輪読し、日本の政治・社会・文化に対する歴史的思考力を高めることを目指す。大学生や一般の人を読者層として想定した、簡易で比較的新しい書籍を取り上げるが、記述の背景を調べ、根拠となっている文献史料の原典を読解することによって、記述内容を批判的に検証する。そうした作業を通じて、歴史に対する思考力・感覚・想像力を磨くことを目指す。今期は、遠藤みどり著『日本の後宮』を取り上げ、日本古代の後宮制度の特質や、天皇と女性との関係の変化について考える。</p> | | | | | | | | | |
| 【到達目標】 | | | | | | | | | |
| <p>古代・中世の日本の歴史に関して正確で幅広い知識を獲得するとともに、文献史料の原典を自分の力で読解し、提示された学説を吟味して、自分の見解を対置する能力や、歴史像を組み立てるための技術を身につける。</p> | | | | | | | | | |
| 【授業計画と内容】 | | | | | | | | | |
| <p>「後宮」という語は、本来、中国の天子＝皇帝の住む前殿の後ろにある宮殿を意味しており、そこに居住するキサキや女官を指す語としても使用された。しかし、日本において天皇とキサキが同居するようになるのは、平安時代に入ってからのもので、奈良時代までの「後宮」は、妃・夫人・嬪という天皇のキサキを指し、内裏外のキサキの宮も「後宮」と呼ばれた。6世紀に倭王位を父系で継承する世襲王権ができると、それを支えるために、天皇の子の“母”を公的に囲い込む形でキサキ制度がはじまった。7世紀後葉の天武天皇の頃には、次期皇位継承者として選ばれた皇子女の“母”を皇后とする皇后制が、皇太子制とともに成立することとなる。このように、日本のキサキ制度は、夫婦関係ではなく、親子関係を軸に整備されたものだが、その後、9世紀前葉の嵯峨天皇の頃には、キサキの増加を背景として、キサキと女官とが内裏内に集まる「後宮」が誕生する。天皇との同居の開始したことは、キサキが、“母”としてよりも“妻”としての側面を強くしたことを意味している。また、皇子女の扶養が、“子”に対する国家からの直接給付に変わったことで、天皇の“父”として側面が強まっていくこととなる。</p> <p>遠藤みどり著『日本の後宮』を輪読しながら、日本古代の後宮制度の特質や、天皇と女性との関係の変化について把握する。あわせて、根拠とされる資料を分析し、内容の可否を検討する。</p> | | | | | | | | | |
| <p>第1回 イントロダクション</p> <p>第2回 後宮とは何か</p> <p>第3回 キサキの誕生(1)</p> <p>第4回 キサキの誕生(2)</p> <p>第5回 キサキの誕生(3)</p> <p>第6回 優遇されるキサキたち(1)</p> <p>第7回 優遇されるキサキたち(2)</p> <p>第8回 優遇されるキサキたち(3)</p> <p>第9回 急増するキサキの再編(1)</p> | | | | | | | | | |
| 日本古代・中世政治文化論基礎ゼミナール (2)へ続く | | | | | | | | | |

日本古代・中世政治文化論基礎ゼミナール (2)

- 第10回 急増するキサキの再編(2)
第11回 急増するキサキの再編(3)
第12回 埋もれていく“女性たち”(1)
第13回 埋もれていく“女性たち”(2)
第14回 埋もれていく“女性たち”(3) / 天皇と後宮

《期末試験》

- 第15回 フィードバック

上記の各回の内容は取り上げる書籍の目次によるものである。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点(授業内での報告および発言・50点)と期末試験(レポート・50点)の合計で成績評価する。

【教科書】

遠藤みどり『日本の後宮 天皇と女性たちの古代史』(中公新書) ISBN:978-4-12-102870-9 (2025年刊行、1000円+税)

【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

全体の進行をあらかじめ通知するので、各回の輪読箇所を読み、授業内容を想定しながら予習をすること。

【その他(オフィスアワー等)】

授業はゼミ形式で、発表および質疑への参加が必須である。

1人1回以上の発表を行ってもらうことから、履修者の人数制限を実施する。

【主要授業科目(学部・学科名)】

総合人間学部